

## 林野庁長官賞

### 山から製材、住宅づくりまで、一貫して国産材にこだわる「影山木材グループ」の取り組み

地域資源を有効活用多角的に事業を展開

#### 影山木材グループ

代表者 影山 弥太郎

#### □事業体の構成

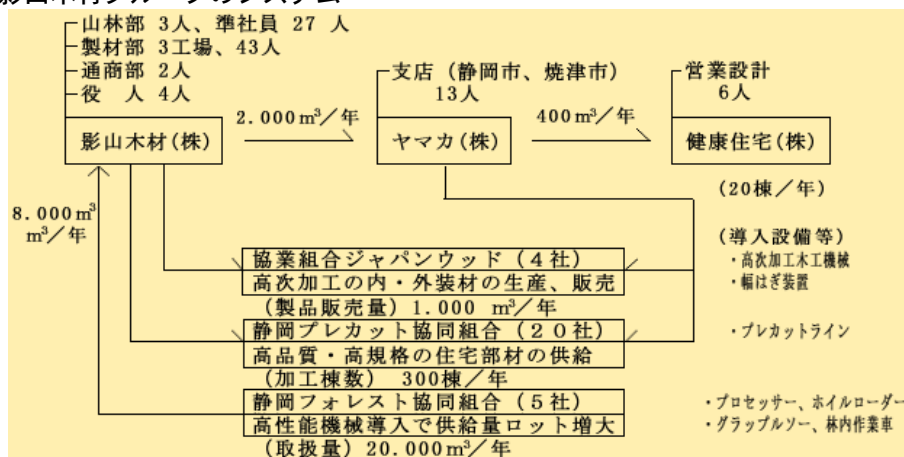
影山木材（株）、ヤマカ（株）、健康住宅（株）

〒420 静岡市若松町103

TEL 054-271-1538



#### □影山木材グループのシステム



## 1 地域のあらし

静岡県は、県土の65%、50万2,000haが森林であり、内40万8,000ha、県土の52%が民有林である。その民有林の60%が人工林で、全国平均の人工林率45%を大幅に上回っており、林業先進県となっている。

それは、天竜林業地域における明治時代の金原明善翁の植林事業や、富士地域を中心とした戦後の一大植林事業によるところであり、民有林の人工林面積は現在24万4,000ha近くに及んでいる。

県内の木材需要量（H6年）は前年比7%増の818万3,000m³となっている。用途別構成比は、パルプ用77%、製材用19%、その他4%となっている。一方供給面では、需要の大半をパルプ用が占めていることや、県産材の供給体制の脆弱性、林業労働力の減少等により外材の輸入が進み、外国産80%、他県産15%、自県産5%となっている。

木材産業は、大消費地である首都圏に隣接していること、県内に有数の林業地を背後に控えていること、木材輸入港として清水港、田子の浦港、御前崎港を有する等の恵まれた立地条件にあること、さらには、その立地条件を活かした産業活力があったことも加わり、製材工場数で全国2位や製材品生産量で5位など、全国屈指の地位を築き上げている。

平成6年の県内製材工場数は、前年に比べて18工場（2.6%）減少し、687工場となっている。類型別では、国産材専門工場が209工場（30.4%）、国産材外材

併用工場が272工場（40.0%）、外材専門工場が206工場（29.6%）となっている。

以上のように、本県は木材産業が盛んな地域であり、清水市を中心とした外材製材工場と天竜地域、静岡市を中心とした国産材製材工場とがそれぞれ集積し、産地を形成している。しかし、国産材製材産地としては、全国の先進地域に比べて、ブランド化への取組みが遅れており、今後は、これに積極的に取り組むことが求められている。

## 2 事業の目的

影山木材グループの中核をなす影山木材（株）は創業明治22年と古く、国産材を専門に製材しており、早くからグループ化の必要性を感じ、自ら製材部門をはじめ消費者に近い住宅部門へと事業を多角的に展開し、さらに地域の木材関連事業体と連携して木材の高次加工事業の協同化に取り組み、国産材の需要拡大と消費者に住み良い家の提供を目指している。

## 3 目的達成への歩み

本グループが立地する静岡市周辺は清水市を中心に外材専門の製材工場が多く、また小規模な国産材製材工場も多いことなどから、本グループは地域の木材関連事業体に呼び掛けて協同化を図った。

まず、県工業技術センターと共同で間伐材等を活用した内・外装材の開発を行い、それを商品化して加工・販売を行う協業組合ジャパンウッドを昭和60年に設立した。次に地域の大工・工務店等と連携し、地域材の住宅部材をプレカット加工する静岡プレカット協同組合を平成3年に設立した。さらに高性能林業機械の導入による地域材の伐出コスト低減を図るため、静岡フォレスト協同組合を平成4年に設立している。

このように、地域の木材関連業界の協同組合等の設立と運営に積極的に参画するなど、地域における地域材の安定供給体制の整備に貢献すると共に、県下の木材業界の先導的役割を果たしており、関係者からも大変評価されているところである。

## 4 事業の内容と実績

〈1〉影山木材（株）は、グループと協同組合等とを有機的に結び付け、地域材供給の核となっている。グループのリーダーである影山木材（株）は、製材工場として本社工場、足久保工場、富士工場を操業しており、総製材量（丸太消費量）は月産約2,800m<sup>3</sup>にも上り、県下一の国産材専門工場となっている。

本社工場では、ヒノキ・スギ材の長柱を主体に土台、桁、敷居、鴨居を生産している。昭和53年にいち早くツインバンドソーを導入し生産合理化に取り組んでいる。足久保工場は、小径木専門の製材工場であり、昭和61年に操業を開始し、小径木から大引、母屋、根太等を生産している。両工場の原木は、原木市場から手当てするものと、山林部が直接立木買いのものがある。立木買いの丸太は麻機貯木場（静岡市内）に入り、仕分けされてから工場に搬入される。

富士工場では今後供給量の増加が見込まれる富士ヒノキ材の有効活用を図るため、最新鋭の大型無人製材機と乾燥機を平成7年に導入して操業を開始している。全て乾燥及びホルダー仕上げで新JAS規格に基づく高規格・高品質な製材品を、首都圏の大手住宅メーカーを中心に積極的に供給を図ると共に、近隣の富士木材センター（県森林組合連合会木材共販所）から原木を購入するなど、運搬コストの低減に努めている。今後の「富士ヒノキ」の産地化と、富士地域の林業振興に大に役立つものとの関係者から期待されているところである。

〈2〉ヤマカ（株）は、影山木材（株）の系列会社として、昭和45年に操業を開始している。その主な業務は、グループで製造された住宅部材を販売（製材、内装材等：約1万m<sup>3</sup>/年）しており、地域材の流通の合理化と円滑化に貢献している。

〈3〉健康住宅（株）は、影山木材（株）の系列会社として、平成2年に操業を開始している。「木の良さ」を一般の人に広く知ってもらう「住まい塾」の開催と内装に木材を使用したオール国産材の「健康住宅」を建築（約20棟/年）しており、地域材等の需要促進に貢献している。

〈4〉協業組合ジャパンウッドは、ヒノキ・スギ材の小径木を利用して、内・外装材を約1,000m<sup>3</sup>/年生産している。材料は、影山木材（株）の足久保工場等から仕入れ、用途別に数タイプの形状に加工される。設立以来、住宅、店舗、学校、病院等に幅広く使用されている。

〈5〉静岡プレカット協同組合は、CAD、CAMシステムによる全自動加工ラインをもち、年間300棟（40坪換算）分の高品質・高規格な住宅部材を地域に供給している。

〈6〉静岡フォレスト協同組合は、プロセッサー、ホイールローダー、グラップルソー等の高性能機械を導入しており、搬出コストの低減と地域材原木（取扱量2万m<sup>3</sup>/年）の安定供給を図っている。

〈7〉本グループを総轄する影山弥太郎氏は、昭和50年、51年に日本木材青壮年団体連合会の副会長兼木材PR部会長を務め、その時、有名な「住んでよし心豊かな木の住まい」の標語づくりと、「木の日」の制定を手掛け、昭和55年には、会長に就任して「学校の内装は木材で」の全国運動を展開しており、学校内装木質化の推進に大きな役割を果たした。

また、氏は、日本の住宅には、日本の気候や風土に最も適し、住む人の心身のためにも他の建築材料に無い優れた性質を持つ国産材をふんだんに使用すべきである、との理念から、全国約100社の木材・建築業者で組織するホームスタディ・グループに参加し、一般の消費者に木の良さ、特性を知ってもらうための「すまい塾」を全国各地で開催、現在は、その会長として、「すまい塾」の講師育成にあたるなど、木材のPRに尽力している。

## 5 今後の取組み

〈1〉平成7年に県単独の補助を受け、「学校の内装木質のパネル化の開発」を、県林業技術センター、県工業技術センター、家具業界、市町村等と共同で研究しているところであり、静岡市内の小学校ではすでにモデル的に木質化されたランチルームが整備されており、今後の研究成果によって学校の内装木質化の進展が期待される。

〈2〉スギ中目材等の利用促進を目的に、日本道路公団と県工業技術センターとの共同で、「木質の高速道路遮音壁の開発」について平成7年度から研究しているところであり、需要並びに価格が低迷しているスギ中目材等の需要拡大が期待される。

〈3〉ビニールクロスや新建材などを一切使用しないオール県産材のモデル住宅を本年度建設中であり、来年度には共同受注の体制を整備し、県産材の需要促進が見込まれている。

〈4〉平成7年度に県産内装材の普及促進のために、影山弥太郎氏が中心となって県産内装材利用促進協議会を設立し、県内で初めて建築士、大工、工務店等を対象に製品展示会を開催した。今後、新たな流通ルートの開拓が期待される。